あーずっとこんなことしていたい!!

ペンキぬりをしたり いろいろ楽しくて仕事すんのがイヤになります!! けど…けど… 家賃が…払えない!!

青空脳天満腹画報

第20号 No.20

雪の日に私は引越した。そして翌日、地震が…

この号が出る頃は少し時間的経過があるのだがガロ誌上で私の引越し話を赤裸々にお伝えしたいと思う…。1月31日(金)あの雪の日に私は引越しを強行した。かねてから引越しの業者にたのんであったのでやむおえないわけなのであるが…。私は物欲がすごい(食欲もすごいけど…)のではっきり言って荷物が多い!!それもコマゴマした物がやったらと多い!!これは見積もりに来たおじさんも超ビックリしていたぐらいですからねえ~。

6帖と4.5帖と3帖の台所の私の引越しは2トントラック2台でした。段ボールは110コはあったハズだしそれ以外にひもでくくった雑誌の数々。ちなみに帽子の箱やら紙類や植物類は前もって運んであったのですから…。こんな荷物があの部屋にあったことが信じられませんよ自分でも…。今度の6帖の仕事場なんて本と段ボールの山でいっぱいになってるもんなあ~。ほんと我ながらすごい荷物です。各部屋につみ上げられた段ボールの山。次の日

例の震度5の地震ですからねえ~。段ボールに入ってたおかげで小物とかもおちたりせずにすみましたけど…。ナカナカのスタートを切った私の新居はまだ全々片づいてません!!疲れからか親しらずがはれて身体中肩こってカチカチです。いつになったら片づいて楽しい我家になるのでしようねッ。不安…でも楽しみ…。家も新しくなったわけだし心機一転!!ファイト一発でがんばりま~す。駅は前と同じ千歳船橋なんですよ…。

●私の日頃の行■いが悪いのでこんな天気になったと友だちがいったよ。

すっげえ荷物!!

?

しかし引越し屋のお兄さんは超力持ちでテキパキ荷物を運ぶ様子を見ていた私は少しうっとりしました…。

ソファーをか あ・こ・が・れ うつもりです…

責任編集 土橋とし子

ちょい前の話であるが私は友んの真保みゆき嬢のお共で渋谷公会堂のオルケスタ・デ・ラ・ルスにつれってもらった。初めてのホールと思えないパワフルでかっちょいいコンサートだった。のらちゃんのパワーにはこっちまで元気にさせられてしまう…ほんとの意味での見せる舞台というのはこういうのを言うのだろうと思いました。海外ツアーがんばって下さいです!!

中古ビデオを売ってて「河童の三平」があったので買ったが「悪魔くん」の方が実は私は好きだ!!

午睡漫画(ゴスイマンガ) ⑲

1992
© TOSHICO "SPANKY" TSUCHIHASHI

どんな色に壁をぬろうかなぁ～楽しみやな～～。

ローラー
ペンキ
ハケ
マスキングテープ
ハンズでイロイロ買った

ほんと壁ぬりも簡単になったもんだねぇ～…
ゴロゴロ
←カベ
けっこう、うまくいったもんでもっと壁ぬりしたいと思う私であります

おわって気がついたらペンキがあちこちについていた。顔中に水色とうすい緑のポツポツには自分でも恐かった。

しゃべる電話

引越しして必要になったので一応コードレスフォン付の留守番電話を下北沢の「イサミヤ」で購入した。いろいろある中でやっぱりソニーのに決めた。私ってブランドに弱いのよ。7年前に東京に出てきた時もソニーの留守番電話かったもんなあ～。しかし7年の間にいろいろ

進んだもんだ…フムフム…。コードレスだもんね、コレが夢のようなことよねぇ～。100mまではなれてても通話出来るんだもの…すごーい!!そんでもっとおどろいたのが電話がすごく話すようになってる事。操作の指示は出すわ、留守中に何件の用件が入っているだとか何時にかかっ

てきたもんだとか変テコな機械音がおしゃべりするもんだから私なんてびっくりして腰ぬかしたよ…うそうそ…。おまけに操作をうっかりまちがったりするもんなら大変、機械音のこもった声のおねえさんに「操作がまちがっています!!」なんて注意までされてしまう仕末!!私は情けない。しゃべるのは自動販売

機だけでいいのだ!!あれも気色わるいけど…夜中なんてイヤだもんね。機械にたしなめられる私って何なの…。ほんと情けなくって悲しくて…涙ちょちょぎれるぅー。コンパクトなこの電話器の中のことを考えると果てしなくなります。やっぱり私のような者は今のような時代にはナカナカなじめにくいのかもしれないと思う今日この頃。

コワイ話よん

遂にやっと私の初の単行本「オリオン画報」が三月中旬に本屋さんに並びます…けっこう気に入ってるので見てみてねッ♡

3月～4月ごろ本屋さんに並ぶ本のカバーを何冊かやったので目にふれることが多いかな?

セックスレス・セックス職人。川瀬眞由美漫遊記

——出版・音楽・放送など各業界をゴロつくマルチ業界ゴロの日常

松沢呉一

vol.14

十二月十三日(金)

新宿二丁目のゲイバーで伏見憲明氏の忘年会。集まった人の過半数はゲイ、レズ、バイといったヘンタイの人達で、セックスレスの私なんぞは最もまともな部類に入る。

ゲイでもアナル体験者は圧倒的少数派なのだが、数少ないアナル愛好家によれば、アナル快楽は質も持続時間もチンチンとは比較にならず、「死んでもいいッ」と思うほどだそうだ。そこまで言われちゃやらないわけにはいかない。来年は一発試してみるとしよう。

十二月十六日(月)

放送作家の柴崎明久さんと花園神社の陶器市へ。東京に来てから14年間、ずっと丼ぶりを買い替えたいと思いながら機会がなかったのだが、遂に丼ぶりを買うことに成功。14年つのってきた丼ぶりへの思いのため五つも買ってしまう。夜、うどんを食べたら、これがうまい。有田焼はいいねえ。

十二月十七日(火)

宗教感謝サービス年間として、どんどん宗教団体に入る方針を打ち出したら、さっそく信如苑信者が近寄ってきたので、すぐに入信してあげる。何と慈悲深い私でしょうか。

幸福の科学信者でもある私は、本日初めて大川隆法の本をちゃんと読む。話題の『大川隆法の靈言』を編集したJICCの町山に、昨日『高橋信次の愛の讃歌』をもらったのだ。ものすげえ大バカ本で死にたくなる。

十二月二十六日(木)

「鉄男2」の試写。続編というより前回のヴァージョン・アップ版といった方が正確だろう。物語は明確になったが、その分薄らいだ部分がある。もったいないが、仕方ないか。

終わってすぐに東京ドームへ。幸福の科学の「聖エルカンターレ祭」だ。ステージには「500万人達成」と掲げてあるが、だったらどうして満員にならんのさ。

子供だましの出し物が続き、バカバカしくなって通路でタバコを吸う。通路ではお母さん達が子供と一緒に遊んでいたりして、中にとてもかわいいお母さんを三人見つける。幸福の科学に入ってよかった。

そして大川隆法がいよいよ登場。あはは、何だあの格好。霊界からやってきた五百名以上の高級指導霊も笑わずにはおられまい。ここで注目すべきは大川先生の視線だ。落ち着きがなく、どうも足元に原稿があるらしい。エル・カンターレがカンペを見ちゃいかんな。

小川知子の歌を楽しみにしていたのに出演せず、それに関する説明も一切ない。これは金を儲けるためにはウソをついてもよいという大川先生の教えだな。ああ、ありがたや。

十二月二十七日(金)

荒木経惟写真展「色景」のオープニング・パーティ。エロ本関係者と名刺交換。以前から私はエロ本の仕事をやりたいと思っていたのに誰も声をかけてくれなかったので、これを機会に是非仕事をしたいものだ。

一月一日(水)

1992年は、たまのオールナイト・コンサートでホーミーをやることから始まった。今年は面白い年になりそうな予感がする。と毎年思うわけだ。そして毎年面白いわけだ。

あちこちからの年賀状。今年はホーミーについて書き添えている人が多いが、オナニー問題や去年に続き飲尿について書いている人もけっこういる。シッコやセンズリの年賀状をもらう人って、そうはおるまい。

一月五日(日)

仏の自転車メーカーMBKの販売元ヤマハ発動機からアンケート用紙が送られてくる。CNNディブレイクの川瀬眞由美にちなんで命名した私の眞由美はMBKの自転車なのだが、買った日から調子が悪く、修理してもダメで、その後すっかり乗る気がなくなった。フランシーヌ（これはビアンキ）は良かった。

おかげで川瀬眞由美のイメージまで悪くなってしまった。川瀬眞由美って見た目はいいが、実は性格が悪かったりするんじゃないかという気がしたりするのだ。

ちょうどいい機会なので、ボロクソにけなしたアンケートを書いて送る。

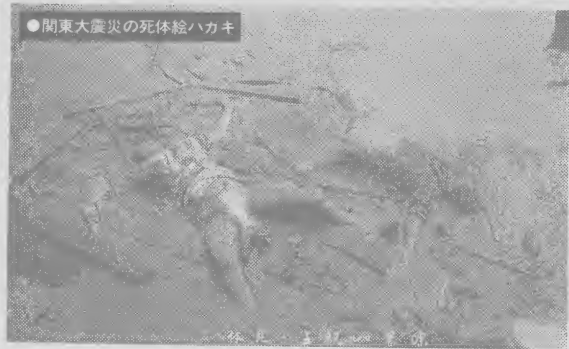
一月七日(火)

音楽関係者のK君とメシを食う。彼は先日初めてSMクラブに行ったそうだ。その店は、女王様がSの男を演じ、客は「ああ恥しいわ。やめてぇ」とMの女になり切るというシステム。K君はすっかり魅せられてしまった様子で、思わず「すごいのよォ」と私に女言葉を口走ってしまう有様である。

一月十二日(日)

渋谷ラママでエコー・ユナイトと友沢ミミヨ参加のリスのコンサート。どっちもいいバンドであるが、本日のエコー・ユナイトは消化不良気味。リスは楽器編成が面白いのだが、音がどれも弱々し過ぎるのが惜しい気はする。

打ち上げで、エコー・ユナイトの坂本君と、春に長野の廃校で、東洋医学とホーミー、鉱

●関東大震災の死体絵ハガキ

●荒木経惟氏と本誌手塚能理子嬢

物採取、山菜採り、オナニー研究をテーマにした合宿をする計画を立てる。

一月十七日(金)

一昨日、世田谷ボロ市で関東大震災の絵はがきを買ったのだが、17枚セットのうち3枚が死体写真である。1枚使用したものも入っており(これは死体ものではない)、消印は大正12年9月18日。関東大震災の僅か半月後にはこのようなものが売られていたことになる。

他にもこういったものがあるのではないかと、今日、神田のアベノスタンプ・コイン社に行ったら、入口に私が買ったものとは違う関東大震災のハガキがズラリと吊してあり、当時かなりの種類が作られたことがわかる。

親族の消息を探し回る人達がさ迷い、あるいは朝鮮人虐殺が行われるその一方で、死体や瓦礫を撮影し、こういったものを作った商売人がいたということか。次の地震の時は私もひとつ頑張りたいと思う。

さらに古書の目録には関東大震災のはがきが200枚4万円で出ているし、水害絵はがきもある。当時は電話が発達していなかったから郵便で消息を伝えるしかなく、災害の度にこのようなものが作られていたようだ。それにしても死体はがきを使った人っていたのかな。

一月二十四日(金)

放送作家のまちやま広美(JICCの町山の妹)に「オレは昔から職人になりたかった」と語っていたら、まちやまが「セックス職人」という肩書をつけてくれる。これはいい。

約6年前にセックスをやめ、以来セックスレス人間としての地位を固めてきた私だが、最近セックスレスが流行になってきて、どうも面白くなくなり、セックスマシーン化計画を構想していたところでもあったので、この肩書がすっかり気に入る。でも性欲を取り戻せるかどうか自信がない。

一月二十五日(土)

デザイナーの八木康夫氏らと古本屋に行く。八木さんはノーマン・メイラーの本を買おうとして「持っていたかな」と悩んでいる。ボケ研究家の私が「そういう時は持っていることが多いから買わない方がいい」と忠告するのを聞かずに買ってしまい、あとで確かめたら、やはり持っていて愕然としている。

40代のボケは激しく、八木さんは同じ話を何度もするし、人の名前が思い出せず「ほら、あの人の友達のあの人」などと「あの人」の連発で誰のことかさっぱりわからん。

一月二十六日(日)

事務所の本棚を見たら、昨日八木さんと行った古本屋で買ったイマーゴのバックナンバーがすでに並んでいるではないか。迷いながら買った八木さんより、持っていないと確信して買った私の方がボケが悪化しているのか。

一月二十七日(月)

メトロファルスのヨタロウに「魚からダイオキシン」の映画評を書かなかったことを批判される。某誌に書くために試写に行ったのに、これは書きようがないと原稿を断わってしまったのだ。「映画芸術」にちゃんと書き、内田裕也から電話がかかってきたらどうしようと震える毎日のヨタロウに難詰され、日記に書くことを約束してしまう。「魚からダイオキシン」は全然面白くねえぞー。これでいいかな。

ヨタロウは、川瀬眞由美がCNNディブレイクをやる前に出ていた天気予報の頃からのファンで、ビデオも持っていると言うのでダビングしてもらうことにする。そしたら、そこにいた女の子が、早朝やっていた子供番組に中村ゆうじと一緒に出ていたのは川瀬眞由美ではないかと言い出す。そのビデオを持っているというので、それもダビングしてもらうことにする。着々揃う眞由美コレクション。

一月二十九日(水)

ある雑誌に出ていた、エコロジー問題に取り組む人々を揶揄する文章に腹が立ったので、今月始めに著者に質問状を出し、今日その回答を受け取る。根拠なく書かれたものであることを著者、編集者とも全面的に認めている。論争になって刺激的な日々を送れるかもしれないとも期待していたので残念ではあるが、世に溢れる同様の主旨の文章も、やはり根拠なく書かれたのだろうと想像する根拠のひとつを得たという意味では充分な収穫はあった。

無視するかとも予想していたので、回答をくれたことには感謝するが、編集者が書き添えた「彼女(著者)の手紙を公表されるのは、ご遠慮願いたいと思います」との一文で頭に血が昇って寿命を3ヵ月縮める。

商品の製造者と販売者が、消費者からの疑問に対して全面的に欠陥商品であったことを認めながら、そのことを公表しないでくれと頼んでいるのだ。では、その商品を買った他の客に対しての責任はどうとるのだろう。どこかで断固公表してやろう。

上野昂志の

黄昏映画館

第3回

イラストレーション★ユズキカズ

小川紳介監督の早すぎる死は、映画にとって計り知れない損失である

小川紳介さんが亡くなった。

二月七日午後十時三六分。この時刻を知ったのは翌日になってのことだったが、その数時間前、わたしは相模原の病院で、荒い息を吐く小川紳介の顔をじっと見ていた。もはやそのときのわたしには、そうするほか何もできなかったのである。

そして、このときから数時間後、頼み事があって会った友人二人と飲んで別れたあと、一人になったわたしは、酒場で泣いてしまった。小川さんの顔を思い浮かべたとたんに、涙が出てとどめようがなかったのだ。なんとも口惜しい。むろん、家族やまわりの人たちの口惜しさ、悲しさは、わたしなどの比ではないだろうが、だからといって、この口惜しさに行き場があるわけではない。

享年五十五歳。あまりにも早すぎる死ではないか。だが、それは、いまの一般的な平均寿命に較べて早いという意味ではない。それなら、人それぞれというしかないが、そうではない。小川紳介のこれからがもたらしたであろう可能性にとって、あまりにも早すぎたのだ。だから、この口惜しさは、過去にではなく未来に属することなのである。

小川紳介のことを、ドキュメンタリー作家と人はいう。また、訃報を告げた朝日新聞のように、「三里塚闘争を映像で追った」ドキュメンタリー映画の監督、というようにもいう。確かに、そのことに間違いはない。『日本解放戦線・三里塚の夏』から『辺田部落』に至る彼の三里塚のシリーズは、土本典昭の水俣のシリーズなどとともに、戦後のドキュメンタリー映画の最高の作品であることはいうまでもない。しかし小川紳介は、そこに留まっていたわけではない。彼は、ドキュメンタリーという枠を拡大すると同時に、そこから大きく踏み出してもいたのだ。それはすでに『辺田部落』にも現れていたことだが、八〇年代に完成した『ニッポン国・古屋敷村』や『1000年刻みの日時計』は、それ自体が、ドキュメンタリーとフィクションといった暗黙の境界を大きく越えて、われわれの映画の概念を大きく揺さぶる作品になっていたのである。ならば、彼が次にどんな映画を撮るのか、それに心を弾ませないものはいないだろうし、実際、小川紳介はその準備を進めてもいた。また彼は、劇映画を撮りたいともいっていたが、もし、それが実現していたなら、どんな作品になっていただろうか。想像するだけでワクワクするそんな可能性がここで絶えた、そのことが、なんとも無念である。

だが、そればかりではない。

わたしが小川紳介と親しく接するようになったのは、本当に短くて、この一年余りのことでしかない。そのことがまた、個人的な口惜しさのもとにもなっているのだが、ともあれ初めて出会って驚かされたのは、彼がいきなり、ロッセリーニの『イタリア旅行』の車の移動の話を始めたことである。それも、きわめて具体的な技術に関わる話だったのだ。

映画監督というのは、当然ながら映画が好きなものではあるが（といっても、中にはそうでない人もかなりいる）、それでも、自分が撮ったばかりの作品でもないもののディテールを、いきなり話し始める人というのは、滅多にいるものではない。小川紳介というのは、その滅多にはいない、徹頭徹尾、映画の人だったのである。これは、長いことその作品に親しんできたものとしては、とても嬉しいことだったが、小川紳介のそのようなあり方は、最後まで変わらなかった。

だから、彼は、日本の記録映画がどこで変わってきたかをいうときも、素材やテーマの問題ではなく（それによって分けることを、彼はむしろ批判した）、編集のリズムということで語った。たとえば彼もそこに所属していた岩波映画製作所では、**超ベテランの編集者がいて、どんなフィルムであれ、小川紳介の口ぶりに従えば**、トントンパッのリズムでつないでしまう。ところが、そのリズムたるや、戦前のドイツのウーハーから東宝の前身であるＰＣＬへと受け継がれた劇映画のリズムであって、これにかかると、どんな素材でもメリハリの効いた心地よい映画になってしまうというのだ。いうまでもなく、小川紳介たちは、それを破るところに新しいドキュメンタリー映画の可能性を模索したのである。

こういう話を、わたしはもっと聞きたかったのだ。いや、ただ聞くばかりではなく、それを記録しておけば、映画そのものにとっても、映画を志す人にとっても、どれほど役に立ったか。映画史と呼ばれる本はいろいろあるが、本当の意味でその名に値するのは、こういう細部の具体的な技術を、画面のあり方や作品のあり方に結びつけて論じたものだと思うが、小川紳介という作家は、それができ

illustration by Kazu Yuzuki

る数少ない人だったのである。その可能性が彼の死によって断たれてしまったのは、やはり、なんとも口惜しい。

いや、わたしがいいたいのは、たんに一冊の本のことではない。実際に彼は、そのように語ることによって多くの若い作家たちに影**響を与えてきたし**、現に与えつつあるのだ。わけても大きいのは、アジアのドキュメンタリー作家への励ましと**批評**である。それは、いまようやく緒についたばかりなのだ。

その一つは、彼が走り回ったことで始まった山形国際ドキュメンタリー映画祭である。これは、アジアで唯一のドキュメンタリー映画祭であり、その内容は、八九年の一回目も昨年開かれた二回目もともに東京国際映画祭などメじゃないくらい充実していたのだが、いまはそれは問題ではない。重要なのは、**それがアジアに開かれており、具体的にアジア**の作家たちに刺激を与えたという点である。

実際、第一回の映画祭に参加したことで刺激を受け、一本映画を撮ってしまったフィリピンの作家もいたが、小川紳介は、そこからさらに、ドキュメンタリー映画製作の具体的な協力関係を作ろうとしていた。つまり、アジアでは圧倒的に不足している器材や技術者のネットワークを作って、実際の製作に役立てようというのである。日本が資本を出してアジアの作家に映画を撮らせるというのは、すでに企業がやっており、その歪みも出ているが、小川紳介が考えていたのは、それと逆に、器材やスタッフという製作現場の側からの協力関係であり、人の交流である。

わたしはここで、批評というもののある種の無力さを告白しなければならないが、一本の映画を挟んで作家と対したとき、批評の言葉ではどうしても作家に伝わらないものがある。いわば、技術を通して、あるいは、技術を具体的に語る作り手の言葉を通してしか伝わらないものがあるのだ。小川紳介なら、それが、たとえ一本の映画を批評的に語る場合でもできたのである。このことが、いまだ「発展途上」にあるアジアのドキュメンタリー映画にとって、どれほど貴重なことだったか計り知れない。

これはもう全人格的な人の問題であって、作家なら誰でもできるということではない。小川紳介という、その個性が必要なのだ。だから、わたしは、彼の命が危ないと聞かされたとき、思わず、これでアジアのドキュメンタリー映画は三〇年遅れてしまうと口走ってしまったのだが、だからこそ、彼の死はいっそう口惜しくてならない。

すでに紙数が尽きかけているので、小川紳介がやりかけていた仕事について、もう一つだけ書いておこう。これは、わたしも協力して進めていたのだが、ペン・シャオリエンという中国の女性監督に、日本で中国人留学生のドキュメンタリー映画を撮らせるという計画である。彼女はもともと上海の撮影所で劇映画を二本撮っているが（その一本が昨年の中国映画祭で公開された『女の物語』だ）、いまはニューヨークで勉強中である。ドキュメンタリーに対する興味は前からあり、実際に三作目は、巴金という作家を主題にして撮る予定だったのが中断しているのだ。それが留学生のことを撮りたいというので、小川紳介が製作を買って出て、昨年の夏には、一カ月余り、その予備取材のためにペンを招いたのである。わたしも、その間に何度か彼女に会ったが、取材の間に小川紳介の作品を見たことで明らかにペン・シャオリエンが変わったのが、実感できたくらいである。

順調にいっていれば、この五月ぐらいに、本格的な撮影が始まる予定だったが、それもいまはどうなるか。ただ、これは小川紳介の遺志でもあるのだから、わたしもなんとか実現させたいが、しかし大事なのは、たんに彼女の作品が完成するということではない。その過程において、これまで小川紳介がやってきた映画製作の流儀や方法が、作り手から作り手へと受け渡されたであろうと思われたのに、その絶好の機会がついに失われてしまったということ。それが、なんとも残念で口惜しいのだ。この無念さは、どこにも持っていきようもないが、いまは、せめて小川紳介の作品でも見直す機会を作って、心を鎮めたいと思う。

（付記　今回は『シコふんじゃった』について書く予定だったが、小川氏の急逝によって変更した）

倶楽部イレギュラーズ
未来へのうた

大いなる心の病、図らずも寂寥たる今昔の流れの中に没し、その真の有様、己の心中に姿認めること能わず　己と人の区別、必ずしも明瞭なるべき物に非らず、おのずから茫漠たる物なり　以て人の心すなわち我が心なり

然して我が心すなわち空の心と知るべし

心中にて嗚咽のハーモニカ吹くは、すなわち空の言葉なり　心中にて怒号の軍艦ラッパ吹くは、すなわち空の病なり　まんこに指を挿し入れて思うは大海に置き去られた己の姿、また陰茎を擦りて思うは砂漠に屹立する幻影の塔なり　バナナの皮を剝くお猿を見て嗚呼このお猿いままさにバナナの皮を剝かんとする者なりと察し、地面に落ちたる一円玉を拾う者を見て嗚呼この者いままさに地面に落ちたる一円玉を拾わんとする者なりと察す　これすなわち現象と心象の接点なりて火を見るより明らかなれど、その認知を己の認知と思う事こそ同時に人の道にて最も邪悪なる事なり　己は己の内に在らず、己と人との中間に在る物なり　煙草を吸わんとして口に煙草を咥えライターにて火を点けるも、点いたつもりが点いておらず、間もなくそのことに気づいてもう一度火を点けて安心したりするはまこと平和なことなれど、この時、煙草を口に咥えた己、火を点けたつもりの己、点いていないことに気づいた己、もう一度火を点けた

第5回

CLUB IRREGULARS

文　高杉、弾。
グラフィクス　羽良多、平吉。
TEXT: DAN TAQUASUGUI

マンが空を飛び、犬が歩くとすぐ棒に当たるので可哀そう　ストーブの前には猫も寝ていますので、僕は蜜柑を食べよう　送られて来る「ガロ」の中で一番面白いのは僕の文章　毎月僕を楽しませてくれる楽しい文章　何度も言うようだが爆弾は危ないので持ち歩かないようにしよう　だけどアメックスカードは忘れない方がいい　そして、出かける時は忘れずに靴を履こう　裸足で歩くと足が痛いから

キャベツのスープも美味しいが鰻のかば焼きはもっと美味しい　毎日食べたいと思うが毎日は食べない方がいい　お腹をこわすと大変だ　爆弾は危ないので持ち歩かないようにしている　おかまのプロレスラーというのも少し怖い　心の中に花が咲いている人がいたらとても気持ちが悪い　つきあいたくない　腹の中が黒い人は癌になりやすいかも知れないので気をつけた方がいいかも知れないが、どうやって気をつければいいのかさっぱりわからないので忠告することもできない　世の中にはわからないことが多い　電話をかけると何でも教えてくれる人がいると便利だと思う　でもきっとお金を取られると思う　最近都会には蝶々が飛んでいないが、ハーゲンダッツのバニラはとても美味しい　遊んで暮していきたいのは山々だが、奈良の山々も捨てた物ではなく、借金のチリは積もって山になり、返したい気持ちも山々で、けれど本当に山々になったので捨ててしまいたいぐらいだ　まったく山々しい借金です　借金の裏山の

己はそれぞれ個別の宇宙に存在し、火が点いたことを見て安心した己はそれら個別の宇宙に存在する己を統一する己であり、かつまた己とはもっとも無縁の己なり

　人を見たら馬鹿と思い、己を見たら大馬鹿と思い、犬を見たら畜生と思い、ケーキを見たら食べたいと思う　海を見て涙を流し、玉葱をみじん切りにして涙を流し、はずれ馬券を見て涙を流し、コケインを吸って鼻水を流す　女の足は太く、唐辛子は辛くて食べられない　爆弾は危ないが爆笑は楽しい　大穴は楽しいがお尻の穴はひとつあればいい　虎穴に入らずんば暗くて前が見えず、笑う角には福が来るかも知れないような気もする　麻薬は当分やめられそうもなく、世の中で一番好きな物は食べ物です　食べ物にもいろいろありますが何といってもハーゲンダッツのバニラです　バニラの中に指を挿し込みて、その際指の先端に付着したるバニラを舐めるのも楽しいですね　狂気は正気の中にこそ在り、爆弾は危ないので持ち歩かないようにしましょう　大麻でラリッてお風呂に入り、風呂上がりにハーゲンダッツのバニラを食べながらトムとジェリーを見るのはとても楽しいだけど警察官に踏み込まれるのは困る　困った時は龍角散を飲んでも治らない　そして青い空、見渡す限りの大草原　花は咲き乱れ小鳥は歌う　名も知れぬ小さき花の中に、僕の心は舞い踊る　まるで馬鹿になったかのように、ひたすらハーゲンダッツのバニラ　スーパー

HÉIQUITI HARATA:GRAPHIX

山々は誰も裏山しくないだろう　駄洒落が嫌いな人にはあまり駄洒落を言わないようにしているけれど、それでもつい駄洒落を言ってしまうのは、僕が駄洒落が好きだからかも知れない　しかし荒涼たるこの世間、駄洒落もいいが女にモテてうはうはになりたい　温泉旅館で入るお風呂は格別で、吉原で入るお風呂は格別で、この際心を入れ替えて、今年こそいい気持ちになりたい　お金も欲しいし愛人も欲しい　トランペットは吹けないが、ホラならいくらでも吹けるから　太陽は東から出て西に沈み、蕎麦屋だって電話をかければ出前ぐらいしてくれる　ああ楽しき哉他人の人生　ツーと言えばカーの他人の人生　なんとか百まで生きたいものだ　路傍の石はたいてい道端に落ちている　諸行無常のお金が欲しい　僕の口座にお金はない　人のお金が全部自分のお金ならいいのにな　そうだこの際だから人から盗もう　だけど犯罪は悪いこと

　あまりやらない方がいい　額に汗して競馬をやろう　働くよりはいいことだ　犯罪よりもいいことだ　それから、女はみんな自分にちんぽがないことを秘密にしておいた方がいい　お風呂に入る時などは、やはり股間は隠しておいた方がいい　女が股間を丸出しにすると、ちんぽがないのがすぐバレる　それからバナナは皮を剝いて食べるようにしよう　そして、つべこべ言わず明日を信じよう　明日にはきっと未来がある　僕とあなたの未来がある

MONTHLY ESSAY INUMO-ARUKEBA by INUHIKO YOMOTA

犬も歩けば

四方田犬彦
連載第51回

VOLUME 51

台湾で『シェルタリング・スカイ』

十二月二日

代官山のヒルサイド・ギャラリーで川俣正に会う。NYで同じアパートにいたので知りあった仲だが、あれから5年近い歳月が経った。

毎年師走になると、このギャラリーではその一年に川俣が世界中の都市で、その一角を借りて作ってきた作品の縮小模型を展示してきた。この人はアーティストのなかでもともかく抜群に変わった人で、建築の作業現場にある足場だとか、建てている途上の木造建築とか、ともかくそうした未完成で、それ自体としては不可思議なオブジェを、そのあたりに転がっている廃材を用いて造りあげてしまう。それもドイツやブラジル、NYといった国の近代都市の真中に突如として出現させるものだから、周囲は濃厚な異和感に包まれることになる。一定期間がすぎると、この「立てかけの木造建築」は撤去される。というわけで川俣は一点の作品も背後に遺していないのだ。

今回の展示は模型ではなく本物だった。街路に転がっているベニヤ板、廃材、段ボールなどを気侭に用いて、二メートル四方くらいの小さな部屋状のものをギャラリーの床面にびっしり据えている。外にも二、三点が展示されていた。見ようによっては屋台の残骸が寄せ集められているようにも見える。それから東アジアのあちこちに見られるスラムや難民キャンプにも。そう考えてみると、純粋にコンセプチャル・アートだと思っていた川俣の作品にも、流亡と巣窟(アジール)の時代である現代の影が投じられていることになるのか。

オシャレな町代官山としては、やはりオシャレなはずのこのギャラリーの前に何の予告もなく茸のように出現した掘立て小屋状のオブジェに強い反撥を感じているようだ。美貌を損ねるから早く撤去してほしいという声がある、と聞いた。

川俣は目下、軍艦島のように、ひとつの島全体を覆い尽くすことを夢想しているという。

十二月八日

日米開戦の日を狙ってか、それともまったく偶然なのか、吉祥寺で在日コリアンの若い連中が中心となった忘年会に呼ばれる。司会が『潤(ユン)の街』を撮った金祐宣(キムウソン)で、遅れて入っていくといきなりマイクを渡されて、なにか喋れといわれた。とにかくすごい熱気だ。百人くらいの人が集まっているわけだが、忘年会にありがちな、いかにも義理で顔を出しているといった人がいない。金久美子(キム・クミジャ)に紹介してもらう。『君は裸足の神を見たか』の金秀吉(キム・スギル)にも会うが、こちらの思いこみとはまったく逆の巨漢で、近々新作を撮るという。やがて長鼓(チャンゴ)が響き、唄(ソリ)が入ると、場内の熱気はいっそう昂まった。島田雅彦や根本敬といった「特殊」日本人の姿もちらほら見かけた。クレパックスの漫画から抜け出してきたような美女がいたので、いったい誰だろうと尋ねてみると、舞踊家の山田せつ子だった。ぼくの韓国論の本を読んで、その昔ファンレターをくれた人だ。うれしい！

十二月十九日

代官山の同潤会アパートに中山公男先生を訪問する。今日はコクトーのフィルム『美女と野獣』を観たあとで、フェルメールとコクトーについて対話をするという段取りになっているのだ。こうして何回か対話を重ねて、一冊の書物を造ろうというのが、ぼくたちの構想である。

昭和初期に建てられたこのアパートで、中山先生は気楽な単身生活をすごしている。床一面に美術書が積みあげられたり、横に並べられたりしている応接間で三時間ほど話をする。ふと隣の部屋に入ると、長椅子のうえに、いかにもぼくが来る直前までしていたかのように、トランプの一人遊びの札が散らばっていた。書斎にはミロの銅版画が飾られてあった。台所の奥の本棚には、なぜか「コロコロコミック」が一冊、推理小説の間に挟まれている。

すぐ隣にあるフランス料理店、シエ・リュイで昼食。同じ同潤会アパートの二ブロックを改造して設けた

レストランであるだけに、部屋の並び方や大きさが中山家とほとんど同じ。奇妙な感覚に囚われながら、先生とワインを呑む。
　夜はグローブ座に勅使川原三郎のダンスを観に行く。客層は圧倒的に十歳代の女の子が多い。猫のような謎めいた瞳をした女性がこちらにむかってきて話しかける。『植民地の光景』の詩人・阿部日奈子だった。

十二月二六日
　朝五時に起きるつもりが、どうやら寝呆けて時計のベルを消してしまったらしい。五時三五分になって目醒め、慌てて服を着、トランクをもって外へ出る。この間、わずか十二分。正月を台湾ですごすため、早朝に羽田空港に向かわなければならないのだ。ギリギリで間にあう。
　十一時半に中正空港に到着し、迎えに来てくれた友人の車で台中へ向かう。もっとも車は勘違いして逆方向にどんどん走り出してしまい、誤まりに気づいたときにはすでに台北へあと十キロという表示が出ていた。台北と台中の間は百五十キロ。つまり東京と静岡ほどにも隔っており、空港は横浜あたりにあるわけだから、これは大変な誤算である。こうなった以上は腰でも据えて、ひとつ台北でウマイものでも食べようと、兄弟飯店のレストランに入る。椅子に比べていくぶん背の低い檳榔樹が二本、三本、また五本、六本と並んでいる平穏な田園地帯を車で抜けて、結局台中到着は夕方となった。
　台湾ではつい先日総選挙が実施され、国民党が圧勝した。「台湾共和国独立万歳」を唱えて意気揚々だった民進党は、惨敗だった。中産階級化した台湾人たちがもはや独立といった急激な政治的変化を望まず、曖昧なかたちの現状維持を求めたということだろうか。聞くところによると、民進党の力の強い南部の高雄などでは、スピーカーを乗せた宣伝カーが何台も行列して街中を練り廻り、日本の「軍艦マーチ」を大音量でかけて気炎をあげていたという。

十二月三十日
　早朝に阿里山頂上から日の出を見ようとするが、曇っていていつ夜明けとなったのか、はっきりとわからず。台湾は南国だと思って気を許していたが、二千メートルを越す山頂は恐ろしく寒い。高砂族らしい三人の親子連れを見かける。膨んだ紙袋を両の手にもっていた。
　阿里山飯店に泊まるが、たぶんここで食べた中華料理は、これまで何百回となく食べてきた中華料理のなかでワーストワンになること必定、というたぐいのものだった。
　知り合いになった台湾人の中年男性から、酒を呑んだときに男どうしで行う話挙（ファークン）のやり方を教えてもらう。二人の人物が、一から五までの数字を右手で示し、その合計の数字が自分が口にした数字と同じであったら勝ちで、負けた方が酒を一杯呑むという、いってみれば単純きわまりないゲームである。もっとも台湾を旅行していると、酒気を帯びた大の大人たちが真赤な顔をして、真剣そのものの怒鳴り声を発しながら話挙をしている光景に、何回も出喰わすことがあった。
　数字の数え方は閩南語で次の通り。たんつぁお。りょんしゃんはう。さんしん。すうほん。ごおき。ろっりえん。ちっちゃお。ぱっせん。かおくぁい。しぷつぁん。
　漢字で書けばこうである。単草。両相好。三心。四紅。五支。六連。七巧。八仙。九怪。十全。

一月二日
　阿里山の寒気にあたったためか、高砂族の山地の町まで来たとたんに三九度の熱がでる。みごとに『シェルタリング・スカイ』だ。解熱剤もいっこうに効を奏せず、三八度四分でナリタのタラップを踏んだのが猿の年のはじまり。昨年後半は旅行というとかならずトラブルに見舞われたものだが、ついにそれが最後の最後まで続いたというわけだ。

一月一四日
　歌舞伎座で菊五郎の『鹿子喰道成寺』を観る。南国の海にいる極彩色の軟体動物を思わせる美しさを感じた。
　歌舞伎ブームだというが、南北や黙阿弥のようなスケールの大きな戯曲家が新作を世に問うということは、もはやありえないことなのだろうか。三島由紀夫の不在がつとに惜しまれる。

一月一六日
　佐々木幹郎。野良猫というのはぼうっとしている猫から死んでいって、利発な猫が生き伸びるものだが、東京の下町では利発な猫ほど夜に車道に飛び出してきて、轢かれて死んでしまう。

一月一八日
　逗子の日陰茶屋で山口椿とはじめて会う。小柄で、顔を六角形に尖らせて笑う人である。上杉一夫にも似ているが、ずっと洒脱で、軽やかな感じの人だった。あなたは声がいいからひとつ十八世紀イタリアの俗曲でも勉強なさったらどうです、と勧められる。陸軍幼年学校出で、パリのコンセルヴアトワールからイタリアへ移ったときの話を興味深く聞く。今自伝を書いたらもっとも面白いのは、こうした人ではないだろうか。

久住昌之の出（で）たとこ勝（しょう）負 Vol.2

ロックで遊ぶ

ボクがティーンネイジの時一番夢中になったのが**ニール・ヤング**だった事は、別のところにも書いたんだけど。
その**ニール・ヤング**の一番ヒットした曲というのは『**孤独の旅路**』という曲です。だけど、この曲が

『孤独の旅節（たびじい）』

だったらコワイ。
ジジイの一人旅。ほとんど**ニール・ヤング**はその境地に入りつつあるが。
その話をバンドのボーカルの奴に話したら、「じゃあ、**ボブ・ディラン**の『**風に吹かれて**』というのも、

『風に吹かれてぇ』

ってしたら江戸っぽくていいんじゃないの」
と返してきた。「風に吹かれてぇぜ、俺ァ」。まったく全然ロックじゃないよなァ、オレ達って。
ギターのやつが、飲み屋で、**チゲ鍋**の事を「**ちんげ鍋だったらやだね**」なんて言ってんだから、どうしょうもない。
ニール・ヤングは、**CSN&Y**というバンドも組んでいた。**CSN&Y**のビッグヒットといえば『**オハイオ**』だ。読者の皆さんは知らないかもしれないけど。オハイオで実際に起こった。確か学生運動の学生が警官に撃ち殺された事件をテーマにしたこの曲も、もしタイトルが

『オハヨー』

だったら一気にのほほんとしてしまうだろう。気が抜ける。
同じように、**ポリス**の『**ロクサーヌ**』も、

『ロクさん』

だったらマヌケだ。**スティング**があの声で、

『♬ロークさ〜ん』

て歌う。ロクさんていそうじゃん、ヒッピーくずれの露天商かなんかに。飲み屋のマスターで髭生やしてバンダナ頭に巻いてる人が。
よし**ローリング・ストーンズ**に行ってみよう。『**サティスファクション**』。

『サティスハックショ〜ン、う〜風邪ひいたかな』。

ちょっと長いか。じゃあもっと美しく、

『サティス白書』。

よし、じゃあ**ツェッペリン**だ。『**天国への階段**』。これを東洋風にしよう。

『天笠への階段』。

いいけど、いいけどロックじゃないよな。**喜多郎**か。話はそれるが**喜多郎**にちょっと似てるタイプだけど、やってるのはシンセじゃなくてオカリナ、という、**宗次郎**という人がいますね。ボクそれで思いついたんですけど、

ゲゲゲの宗次郎

っていうのは、どうですか。
吉田拓郎はその昔『**元気です**』という大ヒットアルバムを出した。『**旅の宿**』なんかが入ってたんだ。オレもダマされて聴いたどこか疑問も持ちながら。中2の時さ。あれも

『元気だス』

だったらよかったのに。デカパンみたいで。
遠藤賢司の当時のビッグヒットは『**満足できるかな**』だ。持ってたよ。コピーまでした。あれを今風にしたらどうなるか。

『満足できるかな〜みたいな』

あーやだやだ。全然ロックじゃねぇよなァ。
ストーンズの『**黒く塗れ**』だって、ちょっと訳し方が違うだけで、

『黒く塗ろう』

になっちゃって、なんかマジメっぽい、学級委員みたいな奴の青春バンド臭くなってしまう。
スティービー・ワンダーの『**迷信**』も、

『名人』

だと急に演歌になっちゃう。映画の『○嬢の物語』も、

『王将の物語』

に変えるだけで**村田英雄**主演になる。
サイモンとガーファンクルの、

『サウンド・オブ・さいざんす』。

トニー谷が歌う曲だ。……うーんでもこれってちょっと嘉門達夫が考えそうな感じだな。
ビートルズの『**LET IT BE**』というのは、訳すのがすごく難しい表現だ。いっそあの曲、聴こえるとおりに、タイトルを

『ネリビー』

とかにしたら酒の肴みたいでいいんちゃう？
『**抱きしめたい**』も、印象的なリフをそのまま、

『あけは』

とか。でもそうすると**エルトン・ジョン**の、『**マインド・ゲーム**』なんて、

『まんげ』

になっちゃってまずいもんなーそれこそ。

アメリカに『**シカゴ**』っていうバンドがあった。あ、まだあるか。あーゆー風に、日本でも地元の土地の名前付けるのどうだろう。『**ナゴヤ**』とか。ダサそー。『**東京少年**』っていうバンドがあるけど、あれだって『**八戸少年**』じゃあやっぱりダメだよな。オレなんてヘタすりゃ『**三多摩少年**』。少年少女合唱団みたいだ。『**土浦少年**』なんてのもアカヌケないなァ。少年野球だ。

クラプトンの『**レイラ**』だって、ひとつ間違って『**レーラ**』だったら、なんか間伸びしてしまう。間伸びついでに『**レ〜ラ**』とか。あのジュースの自販機の「**冷たーい**」っていうコピーみたいに。

『**いとしのれ〜ら**』。

クラプトンが日本人だったら怒るよ、そんな。

ボブ・ディランだって明治時代の人だったら、

『**ボブ・ヂラン来たる!!**』

なんて書いてっかもしれないよ。例の「ビルヂング」のセンスで。**ヂラン**は無いよなァ。

「**ヂープパープル**」だぜ。「**サンヂー&サンセッツ**」だぜ。「**シンヂー・ローパー**」。シンディ・ローパーかと思ったら、**死んでいい老婆**だったりして。

そうそう、バンドのギターのヤツは、**久保田利伸**っていうのが、歌謡デュオ、

『**久保田と忍**』

に思えて仕方が無いと言っていた。いそうだ。

キャロルの『**ファンキー・モンキー・ベイビー**』もヘタに訳しちゃって、

『**おかしな猿赤子**』

にしたらイメージ、変わるなァ。いやまてよ、

『**おかしなおかしな猿コドモ**』

っていうのもいいぞ。

BBキングが歌う

『**エブリデイ・アイ・アブ・ア・ズローズ**』。ヘンタイかあのオヤジ。ブルースをズロースに変えるというのはいろいろ応用できそうだ。でも淡谷のり子が「**ズロースの女王**」っていうのだけはよして欲しい。やめて欲しい。

そうそう、バンドのボーカルのワカは、YMOというのが、

「**イエローマジック・オー真治**」

だったらおかしいね、と言っていた。笑ったら調子に乗って、

「**4番サード原フォーセットメジャーズ**」ときた。古いぜ、ぢゅわいおくちゅーるマキ。

ガンズ&ローゼス。最近「ガンズ」とか言われて人気みたいだけど、オレは全然興味ナシ。江戸時代だったら「種ヶ島」だぜ。

誰にもコワクて言えないだろうけど、ユーミンに向かって慣れ慣れしく、

「**ユーミンちゃん**」

て言ったらどうなるかな。だいぶイメージ変わりまっせ。きっと。ちゃんじゃねーよな。

宮沢首相に、国会の予算委員会の代表質問の時に、

「そんな事言ってるからハゲるんだ！頼みますよおちびちゃん！」

て言える気骨のある議員いないかね。「ばかやろー」より面白いと思うけどなァ。面白くないか。面白くないな。ヤメヤメ。今の取り消し。

ロックに話を戻そう。

ディープ・パープル。ボクは彼等の名曲『**ハイウェイ・スター**』を鈴木大地のテーマにすべきだと思う。

『**背泳スター**』

ボクの好きなアフリカの**サリフ・ケイタ**も

「**セリフ軽太**」

なんて書くと売れない芸人みたいだ。「**サイフ軽太**」でもいいか。

トーキング・ヘッズだって「**喋る頭部**」と訳すとスゴ過ぎる。

ジェームス・ブラウンも、

「**ジェームス茶**」

とやればドリフターズに入れ、ないか。

憂歌団が金持ちになって「豪華団」になったらおかしいな。

マイルス・デイビスは死んだから

「**マイルス大仏**」

と改名するのもいいのでは。

パール兄弟というのは、パンクをやる時は

「**バール兄弟**」

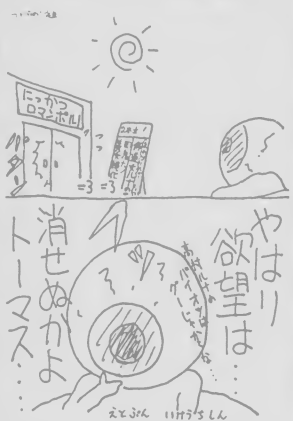
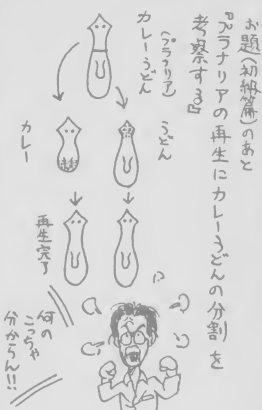
っていうと乱暴な感じが出てくると思う。大工さんが使う、バールのデカイやつってホントに恐い。「**ゴメゴメクラブ**」っていうのも演奏ヘタ系な感じがするな。「**だま**」。**たま**よりもっとドロドロ。**スチャダラパー**も「**スチャダラバー**」にすると一気に中年コメディアンの香りが出てくる。

「X」は難しいな。苦しまぎれで「**エックチュ**」かわいい。

だめだ、70年代ロックの事ばかり考えてたから新しいので面白いのが全然思い浮かばない。

まァ新しい連中には、ギャグにもできないような骨の無いバンドが多すぎるって事だな。

MONTHLY 4KOMA GARO　VOLUME 40.5

4コマGARO

隔月連載じゃない！と言いつつも先月お休みしてしまった当コーナー、「休みすぎる!!」との轟々たるご批判、誠に申し訳ございません。作品の方も三ケタを越えてプールされており、ここで「お題」に対する解答だけでも掲載しておかなければ存続も危ういっ、という訳でヴォリューム40.5（笑）という事でお送り致します。まずお題1、飯田健司のは定番「プラナリアネタ」だが何となく納得してしまうぞ。紺野遊児のは常連なら分かる「自分ネタ落とし」である。お題の絵をよく見てるところと白取に「意外と小心」とあるのが宜しい。間船幸子のは4コマ目だけを描いて来たが、「よーこのカリー」と後ろの村田藤吉で土俵際「うっちゃり」。続いてお題2は（上級者編）、大友克洋のはトーマス（©宮上朋子）のセリフが淡古印になってるのが通好み。オチは「ねじ式ひねり」。逆井公鉾のはトーマスの人格（？）が何か一番近いような気がする。正攻法で堂々たる寄り切り。当の宮上師範はお題に応えてはくれてにが、どうですか。池内伸のはトーマスに性欲を与えた場合で、「高村ルナ」に通を見た。奇手「猫だまし」。板垣修業は同じ「目」でも形状の違いに「目」をつけた、なんちゃって全然面白くねえよ。痛そうで「突き出し」。米山敏幸のはトーマスの大きさがこうだったとは知らなかったぞ上手捻り。２コマ目の親父の手つきが土俵入りのようで良い。最後に飯田健司、トーマスも親父も異常に肉付きが良いのが不気味ではあるが「新沼謙二の目」は禁じ手。それを言っちゃあ秋野○子とか、○○○○とかだって…「勇み足」。次号ではきっとフルスペースでお会いできるでしょう……いや、やる。ではまた来月………

座間市 大友 克洋	群馬県 間船 幸子	鶴見市 紺野 遊児	札幌市 飯田 健司
いわき市 逆井 公鉾	今月の掲載作品 作者氏名一覧		
大分市 池内 伸	※「お題」方式に応えてくれた読者諸兄の割合は9.5%くらいで御座いました。クソ。		
	佐倉市 板垣 修業	渋谷区 米山 敏幸	札幌市 飯田 健司

読者サロン

今月の有難ひ御言葉（みことば）

アンケート葉書編

「読者サロン」で四日市市の男性が、1月号は全体にテンションが低いと書いておられるけど、同感でした。最近、1月交替で、面白い月とイマイチの月がくるように感じます。そのため今月は、面白い月であり、さらに2ヶ月待ったということもあって、ものすごく面白かった！これはスゴイスゴイと叫びつつページをめくり続けました。
三鷹市・24才・男

ガロ♡好きになりそう。続けて呼んでみないとわからないですから、又買います。
柏市・28才・女

下ネタ路線もすきですが、ド・セクシーな（「トパーズ」みたいな）作品が読みたい。
北区・23才・女

アビコマリエさまの顔を見ることができてうれしかった。アビコ先生、私はウランちゃんの髪型で学校に行きました。もう長いことやってませんがみんなに「どうやったのぉ？」とか言われるのがうっとおしかったです。ところで大越孝太郎さんの「星に願いを」と「おっぱい大好き第2弾」がまちどおしくてまちどおしくてしょうがない。はやく読みたいよー。
清水市・18才・女

"ガロ"に安心感を求めちゃイカンと思いつつついついよんでしまふ。そして安心感を絶対得るコトなく、いろいろ思いふけってしまふ。どーしてですかね。
函館市・18才・女

若手の評論家を起用して、社会時評を連載して欲しい。なるべくガロ曼陀羅にも無能の人のススメにも書いてない人がよいと思う。漫画でこれだけ外部の血を導入しているのだから、文章の面でもガロ人脈から外れた人を起用して、リフレッシュをはかった方がいいように思われる。混沌とした時代の指針となる様な強力なヤツを、ひとつお願いします。
四日市市・21才・男

泉先生の作品を呼んで同感しました。学生のくせに車でナンパをする奴は最低だ。
堺市・21才・男

ガロ増刊号「根本敬特集」を出してほしい。
福岡市・21才・男

ガロを読み始めてから、心なしか友人が減ったような気がします。この間、友人に山田花子さんの「嘆きの天使」を見せてあげたら、次の日から私のそばに寄ってこなくなりました。（何故だろう？）
柏市・14才・女

毎年2／3合併号はいつ発売！と決めて欲しい。20日頃から毎日通ってしまいました。本屋へ…。
平塚市・27才・女

まず、文句です。高橋悠治さん、あなたがなぜガロに載ったのか不思議でなりません。四方田犬彦先生、これじゃ、あんまりです。お芸術家の言葉が載るなんてあんまりじゃないですか。高橋氏は音楽という形式で、植民地を広げている、クラシック音楽家＝カルチャー側の人間じゃないですか。そんないばりくさったお芸術家、文句言われれば俺だけじゃないとひらき直る、日本人のくさった標本のようなお人の言葉を、なぜ、ガロに載せたのか、非常によく知りたいです。
いわき市・16才・男

全体的にいえば、低調かな、と思ってしまった。
春日市・19才・男

Gossip & Book INFORMATION

！昨年、渋谷のギャラリー・アートワッズで開催され大好評だった根本敬画伯の個展・**特殊博覧会「暗黙の了解の密室の秘め事」**が、より**パワーアップして大阪に乗り込むぞ！**会場は、大阪通ならご存知の『楽天食堂』が経営する、**画廊「パライソ」**。東京での開催を見られなかった西日本根本ファンのアナタ、これはもう行くしかあらへんでっ!!

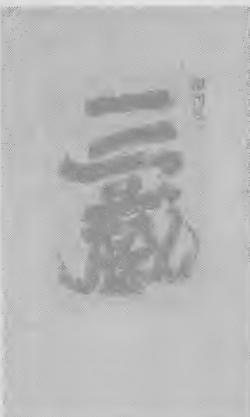
期間 3月7日(土)～3月22日(日)（期間中月曜休み）
AM11：00～PM8：00

「パライソ」…大阪市中央区西心斎橋2―10―27森ビル2F
☎06（213）3181（楽天食堂内線）

なお、**7日のオープニング**には根本画伯、ガロ編集部からは食い倒れ白取が顔を出します。**大阪の人、来てね！**

GALLERY PARAISO ギャラリーパライソ

★本誌「犬も歩けば」で御馴染み、**四方田犬彦先生**が参加している同人「**三蔵**」の同人誌、「**三蔵」創刊号**がいよいよ刊行されました。この号には四方田氏の他俳人の夏石番矢氏、歌人の石井辰彦氏、詩人の鷹田愛氏など、そうそうたるメンバーが詩、歌、俳句、版画、エッセイなどを寄せておられます。なお、題字は永田耕衣氏によるものです。**定価2000円、発売は書肆山田**。読んでみたい方は、書肆山田☎03―3988―7467にお問合わせ頂くか、直接〒354 **埼玉県富士見市鶴瀬西3―16―11夏石方・三蔵社会計係、振替口**

座東京2—557633まで郵便振替でご送金ください。(送料210円)

✲荒木経惟さんが、初のカラー写真集「色景」を出したっ!!(マガジンハウス・定価六千円)いつも何気なく見ていた空や緑が街が、こんな色をしていたのか、と改めて感動してしまう。特に、雨上りはキレイだ、ぬれてまた色が変ってしまうから……。美しい写真はいろんな事を考えさせてくれます。この「色景」は編集部がすすめる一冊です!!

㊟このところ若い女性からファンレターの多いシバこと三橋乙揶氏は、久しぶりにアルバムをレコーディングしました。バックには鮎川誠氏、知久寿焼氏、チャーリー清水氏等、ビックなプレイヤーが勢ぞろいっ!! ♬快いブルースロックに仕上がったそうで、発売が楽しみですね。次号で、そのレコーディングの様子をお見せ致しますっ!!

◎特集でアツイ想いを語ってくれたみうらじゅん氏は、原稿を描きあげたあと、すぐにミラノへと旅立ちました。なんでもミラノで海賊盤市があるそ。もちろんディランの海賊盤を入手するため。これはストーンズコレクター世界第2位の中野D児氏のおさそいで、2人はハラマキに大金を入れて、新宿から成田エキスプレスに乗りこみました。スリに気をつけろよっ!!

♨今月巻頭を飾ってくれたひさうちみちお氏は、現在5匹の猫を飼っておられます。もうそのかあいがりようといったら大変なもの。5匹も飼っているせいかウンコの始末も手慣れたもんで、ボール紙を小さく切り、ウンコをすくって便所に流すその姿には、後光さえさしておられました。

◎このところ、ガロ系の漫画家の個展を積極的に開いている渋谷、アートワッツでは、今年の年間スケジュールが決まり、次のような方々が個展を開く予定です。

7月2日〜14日↓久住昌之
9月17日〜29日↓原口健一郎
11月5日〜17日↓ひさうちみちお
11月19日〜12月1日↓丸尾末広
12月3日〜15日↓花輪和一(敬省略)

ファンの皆様、おみのがしのないよう。近くなりましたらまた、くわしくお知らせします!!

♥「美少年展」

明治期から現代までの少女向け読み物の中に、少女たちが抱いた恋へのあこがれを追う、少女の恋を視覚的に象徴する〝美少年〟の姿を追うことにより少女たちが辿った恋の歴史をテーマにした美少年展が、文京区・弥生美術館で開催されます。展示品は、高畠華宵、伊藤彦造など、美少年ファンにとっては見のがせぬものばかりっ!!

日時/4月2日〜6月28日(10時から5時まで)
問い合せ☎03・812・0012

♨去る2/2のぺったらぺたらこナイトで華麗なる特殊音楽パフォーマンスを披露し、会場に前衛的な匂を撒き散らした、特殊音楽家とうじ魔とうじ氏と、不思議美術家松本秋則氏、舞踏演芸家村田青朔氏の3人によるユニット「文珠の知恵熱」の関西公演のお知らせです。

『マカロニ空洞説』
日時:4/11(土)7時30分、4/12(日)4時
料金:前売1500円、当日2000円
会場:神戸ジーベック・ホール(三宮よりポートライナー、中埠頭駅スグ)
問合わせ:Tel078(303)5600

前回公演より(撮影・荒木淳助)

◇第一回東京レスビアン&ゲイフィルムフェスティバル

メイプルソープやキースヘリングらN・Yのアーティストによるエイズに関するプログラム、アジア的なゲイフィルム世界、ドキュメンタリー、実験映画等、世界各国30本以上の未公開レ

スビアン＆ゲイフィルム作品を、日本で初めて一挙上映。
日時・3月16日(月)〜23日(月)
場所・渋谷パルコ・スペース・パート3

◎今月の唐沢商会
「脳天気教養図鑑」がそろそろ発売の唐沢商会ですが、この度その刊行に併せて原画展を開く事になりました。
日時・3月17日〜4月7日（予定）
場所　神保町書泉ブックマート3Fコミック売場
今回の単行本の原画を中心に展示する予定ですので、是非観に来てください。なおコミック売場には青林堂の出版物がほぼ全点とバックナンバーも揃っております。

♥今月の訂正
先月号の『ガロ名作劇場』で、P266の伊藤徹さんの文中の記述に誤りがあった旨、伊藤さんご本人よりご連絡がありましたので、ここに掲載させて頂きます。
文中、水木しげるの記念すべき青林堂第一作は『忍法秘話』8巻に発表した「忍法屁話」である、と記述されておりますが、正しくは『忍法秘話』2巻に掲載された「忍者無芸帳」が青林堂刊行物での水木しげる第一作である、との事でした。
「なぜこんなポカをしたのか、最近アルツハイマー症が進んでおるのでは…」という反省の弁でしたが、ハッキリ申しまして、「間違いである」というご指摘は我々編集部内はおろか読者諸兄からも、まったくありませんでした、ははは。（…ウ〜ム）

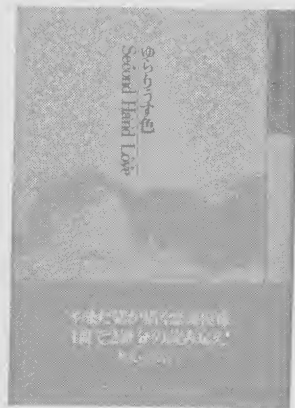
♬先月にひきつづきガロ期待の星!!三本義治氏も参加している〝大恐慌劇団〟のライブがあります。
大恐慌劇団お笑いライブ
日時：3月8日(日)PM7：00
場所　シネプラザ・スペース50
（恵比寿駅西口三菱銀行隣・見須ビル3F）
なお当日ガロ持参の方は料金が1000円のところ800円になるそうです。

踊り念仏
踊り念仏

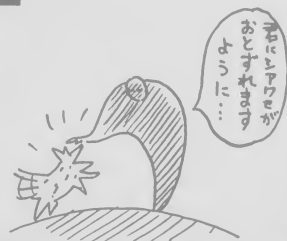
◎今月号でも不思議な心ざわりのする作品を発表した**友沢ミミヨ**さんは、「**リス**」というバンドでも活躍中です。老若男女、みんなが楽しめる、**宇宙図鑑**のような歌で、友沢さんはユーガに**大正琴**をかなでております。一目ごらんになりたい方は、3月12日・渋谷ラママで**ライブ**をやりますので、お出かけ下さい。

★主婦と生活社から、人気のGIGAコミックスが連発されたぞ!!まずは**岡崎京子先生の「ハッピィ・ハウス」**（上・下巻）。女子中学生るみ子の目を通して、家族の崩壊と再生を描く、話題の作品。ストーリーテラーとしてもう十分その作品の面白さは**評価**されてる岡崎女史の「家族とは、家庭とは何なのでしょう」という問いへの、一つの答えなのかも。さらに、ワガ社からも単行本を上梓されている**桜沢エリカ先生の「世界の終りには君と一緒に」**（上・下巻）。「当世若者気質」とゆーと一気に爺臭くなるが（笑）、この世紀末の**TOKYOクラブ・キッズ**に贈るもう一つのラブストーリー。常に入れ代わり交代し、変化をとげる「現代の若者」像というものの最前線を、ホントにいつもレーダーでキチッ、と**補足**している。2点ともA5判、各730円。とっくに発売中、なのでまだ読んでない人は**書店へGO**。その前に出た**伊藤理佐さん**の、お留守番ハムスターと買い主のイケイケギャルの騒動を描いた「**おるちゅばんエビちゅ**」（580円）も、とても愉快でお勧めだ。

おるちゅばん
エビちゅ
伊藤理佐

★婦人公論で「Blue Sky」が**大好評連載中**のやまだ紫先生が自選した作品集が、全5巻、筑摩書房から刊行されます。「**性悪猫**」「**しんきらり**」をはじめ、先生の代表作は全て、それに加えて単行本未収作品も入ってしまう**決定版**。2月刊行の第1集、「**ゆらりうす色／Second Hand Love**」は、詩人の井坂洋子さんの解説。2巻以降、山田太一、知久寿焼、吉本ばななさんら多彩な「やまだファン」が解説に登場。全5巻装幀は**南伸坊氏**、定価千七百円。今は手に入らない幻の作品群も鮮かに蘇える！　やはり**名作は色あせない**……。

※やまだ先生の原画展が**6月**に行なわれます。ファンの皆様、お楽しみに！

くわしくはまたガロ誌上で!

♥**今月の蛭子能収**
今月は蛭子さんの地元・西所沢で原稿を頂きました。喫茶店でネームを入れつつ蛭子さん、「いやあ、今週刊連載が8本、月の連載が15本あるんですよ、それでオイこないだ数えたら**1月は65本も仕事したんですよ！**だからもう時

間無くて**麻雀もパチンコも全然やれんとですよぉ！**」と嘆く事しきり。「週に8本！という事は月に32本ですか!?」「あ、でも週刊連載は**全部まとめて一日で出来ちゃう**やつばっかりなんですけどね、なんつってやら…でもその合間にあちこちTVとか入ったりするんで全然ギャンブルも出来んとですよ」……しかしよく聞くと、今月のギャンブル新聞にもあるとおり、仕事で競艇に行ったものの、ギャラの**40万以上を3日で全部スッた**、とゆー事。ちゃんとギャンブルやってるじゃないの、普通の人の**一年分！**と思った早春の夕暮れではありました。

♥今月の長井勝一

校了の直前、社員が本出しだ写植指定だ注文の電話だナドとバタバタしていると、某月刊誌を読んでいた長井会長、突然「世界一のデブが死んだんだってな！」

その声に「どれどれ」と集まった社員一同、それによると、ナンとギネスにも載っている511kgの超肥満の男が亡くなったそうで、遺体はあまりの重さに戸外へ運び出せず、クレーンで棺桶を外へ「搬出」したそうであります。そのデブの方は（笑）最盛期には545kgあったそうで、それを読んだ長井さん、「凄ぇなー、545kgだってよ！俺36kgだから……15人分じゃねえかよ、ワハハハ」と非常に愉快そうに笑われたので御座いました。ナンとなく殺伐としていた校了間際の雰囲気が、ちょうど編集部に差し込む小春日和の陽射しのよーにホノボノとしたのでありましたよ。ちなみに谷田部周次編集委員だと11・35人分、白取だと8人分であります。

残飯整理

怪力。ねりん

円仕事をしている間はどうやら男になっているらしく、コトバはキツイし、バカバカタバコを吸っちゃうし、すぐに殴るし……。そおいえば最近ヒゲがはえてきたっ、タハッ。じがじ、お家に帰るとお姫様のようになります。昔、ものすごいビンボーをしたので、今はバカスカ働いて、少しはマシな暮しをしているので、ビンボーな高市を時々家に泊め、バラの香りのリンスなんかをつかわせてあげて、嬉ぶビンボー人をジ〜っとながめています。特集でがんばってくれた、みうら氏、久住氏、ご苦労様でした。寒い京都で一日中顔をこわばらせながら撮影に強力してくれたひさうち氏、おつかれ様でした。

（手塚）

♨毎月ガロの締切りが迫ってくると、なぜか編集部内に風邪が大流行。もうダメかものギリギリ状況には、ほぼ全員（この場合志村は除く）セキや鼻みずを垂らしながら、熱っぽい体で写植を貼ったりしている。が、なんとか無事に締切りが終わると、何事もなかったかの如くいつのまにか全快してビールなんぞを飲んでいたりして、みんな仕事がキライなんだな…。やっぱし。

ところで、銀の表紙の今月号いかがでしたか？最近アンケート葉書ばかりでお便りが少ないので、バンバン送って下さい。よろしくお願いします。

（周）

◐僕のいっている銭湯には、浴槽の中で出ているいきおいのよいあわで肛門を洗う人がいるので僕はひそかに〝肛門ジジイ〟と呼んで、できるだけ会わないようにしているのですが、良く会ってしまいます。その他にもヤ○ザの人かたくさんいたり、キン○マアライグマ親子がいたりします。本当に銭湯にはいろいろな人がいるものです。

（志村）

♬今自分が座っている席は、長年経理の香田さんがお座りになっていた所であるが、ここが過酷な席である事が身にしみて分かるようになった。窓際なので夏は暑く、冬は寒い。ワガ社のクーラーといやあ爆音とともに情けない風を頭上にそよがすというシロモノだし、暖房は今の所平常（先代は数ケ月悲鳴をあげた末ブッ壊れた）だがこっちまで風が届かない。う〜ん、香田さんはエラかった！と思って正面を向いたら長井さんの顔があった。そういや対面の長井さんの席も同じ条件なのだ。しかし、こないだここと向かいには足元に電気ストーブがある事を思い出した。昔、会社のストーブが小さなオンボロだった頃に、皆が「寒い寒い」と震えていると、長井さんが申し訳なさそうに足元の電気ストーブをそっと「…パチン…」と点けていたが、これはズルいようで、全然ズルくないのだ。ちょっと焦げ臭いけど。

（白取）

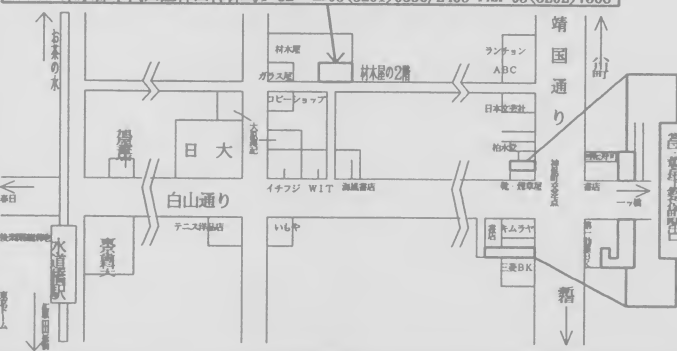
❀おフランスの映画を観ながら、優雅に紅茶を飲んでたが、紅茶を飲み込む度にお腹がギュルルルルと鳴った。身の程ってゆーものを充分に思い知らされた。アハハハハ。

（高市）

◆ビデオ爆発!!「テレグラムガロ」を編集中に、機材が爆発してしまいました。そのため、少し発売が遅れます。

◉編集部より◉

作家の方に**ファンレターを出すにはどうすれば良いのか？**というご質問がよくまいります。その場合は、「**青林堂気付　○○先生へ**」と明記して、**当社宛郵送下され**ば開封せず、**そのままその先生にお渡しします。どしどし**お送り下さい。

原稿の持ち込みは、必ず前日までにお電話下さい。（原稿拝見は午前中のみ受付けております）また、本を直接買いに来られる方は、営業時間内（AM9：30〜PM5：30）にお願い致します。

月刊ガロ年間新人大賞 長井勝一賞 募集のお知らせ

月刊『ガロ』は、1964年の創刊以来、商業的には小さいメディアながらも、常に新しい才能を発掘し、新しい表現分野を開拓してきました。『ガロ』からデビューされた作家の方々は、単に漫画という一表現にとどまらず、様々な分野で活躍されている方も少なくありません。また『ガロ的』という言葉も、やはり単なる漫画というージャンルのものではない筈です。ですから、漫画作品として優れている事はもちろん、今後の幅広い活躍を予感させる、ユニークかつ独創性のある作品を募集します。

商業誌に未発表作品であれば、従来の「漫画」という様式に囚われない斬新な作品でも結構です。(ただし作品として完成されたもの)

今後『ガロ』への投稿作品はすべて長井勝一賞の選考対象となります。

※応募要領※

①原稿内枠サイズは、天地が273mm・左右184mmです。
②一色で、墨汁または黒インクを使用のこと。
③せりふ、ナレーションは鉛筆で入れること。
④うす墨は不可。中間色はスクリーントーンを使用してください。
⑤原稿用紙全体の大きさは問いませんが、断ち切りは15mm以上延ばして下さい。
(従来のガロ投稿作品要領と同じです)

※応募規定※

※年齢・性別などは一切問いません。
※必ず原稿の最終頁の裏に、住所、氏名、年齢、電話番号を記入して下さい。
※原稿返却希望の方は、切手貼付の上、返信用封筒を同封して下さい。

投稿宛先　〒101 東京都千代田区神田神保町1-62
(株)青林堂　長井勝一賞選考係

審査員長　長井勝一(青林堂会長)

他審査委員に漫画家・作家・イラストレーターなど多彩な方々をお迎えする予定です。(決定次第誌上で発表いたします)

※選考結果の発表は、月刊ガロ誌上で行う予定です。勝手ながら、お手紙やお電話でのお問い合わせは一切お断りさせて頂きます。